

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 11 日現在

機関番号： 130901
研究種目：若手研究 (B)
研究期間：2008～2011
課題番号：20730424
研究課題名 (和文) 軽度発達障害が疑われる子と親への早期介入プログラム構築のための研究
研究課題名 (英文) Research for the early intervention program construction to the Developmental Disorder Child suspected and parents
研究代表者 永田雅子 (NAGATA MASAKO)
名古屋大学・発達心理精神科学教育研究センター・准教授
研究者番号：20467260

研究分野：臨床心理学

科研費の分科・細目 社会科学

キーワード：発達障害 育児支援

1. 研究計画の概要

発達にアンバランスをもつ子どもの家族にとって早期療育の機会は、育児不安の軽減と、育児の指針となる契機となり、有効な支援となりうることは多くの臨床家によって認められてきた。しかし、知的な遅れを伴わない軽度発達障害の場合、早期発見が難しく、これまでは支援に結びつくことは少なかった。そこで、発達に明らかな遅れがないものの、多動やコミュニケーションのとりにくさなど何らかの発達障害が疑われる就園前の幼児（1～2歳児）とその親の精神的健康度を検討するとともに、「育てにくい子」を育てる親への育児支援の枠組みの中で実施可能プログラムを開発するとともに、その効果を検討することを目的とする。

2. 研究の進捗状況

軽度発達障害を疑われる子と親への早期介入プログラムを、保健センターで実施する事後フォロー教室とは別に立ち上げ、地域の保育園を使い、親への育児支援をおもな目的とした少人数によるフォローアップ

親子教室を開催した。1クール8回（隔週・午前中）、4か月の開催とし、参加者は、新規と継続の参加者で構成され、原則2クールを継続しての参加とした。また平成20年8月のクールから参加する母親と子ども51名に研究の同意を得て、教室参加前に母親の精神状態および子どもの発達検査等を実施した。評価の方法は、母親の精神状態の把握には、ベック抑うつ質問票 (BDI)、PSI 育児ストレス尺度を実施し、子どもには新版K式発達検査による発達評価、またオリジナルに作成した生活・かかわりチェック表を母親に記入してもらった。昨年度までに、2クール継続して参加し、教室参加後で協力が得られたのは、49名である。母親の抑うつ得点の変化は低下傾向が認められ、親の育児ストレスとくに、親としての有能さの下位尺度得点が有意に低下しており、親の育児支援の効果が認められた。また子どものDQの推移では、全体のDQおよび言語・社会領域が有意に上昇していた。また同年代の子どもを持つ母親を対象に調査を行い、母親の抑うつと育児ストレスに

ついて比較検討したところ、教室参加群は、同年代の子どもを持つ母親に比べて抑うつ陽性率が高く、育児ストレス全般にわたってストレスを強く感じていることが明らかになったが、育児ストレスについては教室参加後では有意差が認められなくなった。また、育児支援教室参加者に参加回ごとに感想を記入してもらい、その記述から心理的プロセスを検討したところ、一定の心理的過程を経て、我が子に会ったかかわり方を工夫し、前向きに育児にとりくめるようになっていくことが明らかになった。

3. 現在までの達成度

②当初の計画通り、教室参加者の98%から研究協力を得て、教室参加前後のデータがそろいつつある。研究開始当初、2歳台の子どもが対象となったため、3年目の段階で、当初予定していたフォローアップの年齢の5歳になっている子どもたちが少ないため、予後調査が十分おこなえていないが、就園後の適応状況のデータはそろいつつある。また、教室のプログラムについては、効果が認められることが明らかになったため、母親向けの冊子を作成し、福島県や滋賀県など県外からの養成で、配布をおこなった。

4. 今後の研究の推進方策

教室参加者の予後調査を本格的に進めていく予定である。園での適応状況調査を6月に、また子どもおよび親に対する調査を夏休みに実施予定にしており、すでに、調整が終了している。教室参加前後のデータについては3年分蓄積されてきているため、研究成果を学会発表や論文をすすめているところである。また、他地域でも実施できるように本研究で開発した育児支援教室プログラムについての出版計画もすすんでいる段階である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- 1) 永田雅子 (査読なし) 愛着障害—乳幼児の愛着と関係性支援 こどもケア 15 (5) 18-24 2010
- 2) 永田雅子、岡嶋美奈子 (査読あり) 地域における広汎性発達障害児と親への早期介入の試み—親の育児支援における効果の検討— 小児精神と神経 48 (2) 143-149, 2008

[学会発表] (計5件)

- 1) 細溝さやか、永田雅子 かかわりにくい子を育てる親への育児支援教室の試み (1) —母親の心理過程の検討—日本心理臨床学会東北大学 2010.9
- 2) 永田雅子、細溝さやか かかわりにくい・育てにくい子どもを育てる親への育児支援教室の効果 (1) 親の育児ストレスの検討 日本小児精神神経学会 2009.6 第102回大会名古屋

[図書] (計2件)

- 1) 永田雅子 周産期から乳幼児期の親子関係への支援 本城秀次監修 子どもの発達と情緒の障害 岩崎学術出版 95-108, 2009